

作成日	COMET	発行
2024. 12. 01 No.354		榊山製作所 企画・デザイン室

冬のブローチコーデ

今年も残り1ヵ月になりました。11月まで暖かった日々も最近では慣れてしまい、秋がなく急に冬になるような肌寒い季節になってきましたね！2024年冬のコーデにおいて、ブローチは非常に魅力的なアクセサリです。ブローチを使う事で、シンプルなコーディネートに華やかさを加える事ができます。いくつかのスタイリングアイデアをご提案します。

- 1. コートの襟に、**シンプルなウールコートやダウンジャケットの襟もとに大きめのブローチをつける事で、存在感を出しつつ、暖かさを保つ事が出来ます。
- 2. ニットセーターとの組み合わせに、**厚手のニットセーターに小さめのブローチをつけると、カジュアルながらもお洒落な印象を与えます。特に、セーターの胸元や肩に配置するとバランスが良いです。
- 3. ストールやマフラーに、**冬の必需品であるストールやマフラーにブローチをつける事でアクセントを加えつつ、暖かさや保つ事ができます。
- 4. ドレスやスカートのアクセントに、**フォーマルな場面では、ドレスやスカートにブローチをつける事でエレガントな印象を演出出来ます。特に、ウエストや胸元に配置すると効果的です。
- 5. レイヤードスタイルに、**複数のブローチを重ねてつける事で、個性的なスタイルを楽しむ事も出来ます。異なるサイズやデザインのブローチを組み合わせるとよりユニークな印象になります。

ブローチは、素材やデザインによって印象が大きく変わるため、自分のスタイルに合った物を選ぶことが大切です。冬のコーディネートにぜひ取り入れみてください。(T. I)

1. コートの襟



B6006

2. ニットセーターとの組み合わせに



B5884

3. ストールやマフラーに



B5691

4. ドレスやスカートのアクセントに



B5694

5. レイヤードスタイルに



B5923

小豆ほうとう



山梨の郷土料理であるほうとうには様々なバリエーションがあります。その中でも異彩を放つ小豆ほうとうをご存じでしょうか。ほうとうの起源、平安時代には小豆の汁で食べられていたことが貴族の日記などに記録されているそうです。山梨では江戸時代以降、味噌で煮る「ほうとう」が日常的に食べられており、「小豆ほうとう」は正月や盆、村の祭り、田植えの時期など地域行事や祝い事の時に食べられてきたそうです。本来はぜんざいのようにあずき汁に餅を入れますが、稲作に適していない地域が多い山梨県では餅は大変貴重なもので「ほうとう」のめんを太めに切り、餅に見立ててあずきの汁粉に入れ代用していました。あずきの赤い色は邪気をはらい厄除けの力があると伝えられており、新あずきと小麦粉を神前に供えふるまわれた「小豆ほうとう」を食べて収穫に感謝するそうです。甘くてたべ応えある小豆ほうとう、是非食べてみてください。(N. S)

動物園



山梨県甲府市には古くから地域の人々に愛されてきた動物園、甲府市遊亀公園附属動物園があります。大正8年に開園し日本で4番目に古く、歴史のある動物園です。現在はリニューアル工事のため休園していますがYouTubeやSNSには動物たちのようすが投稿されています。地方の動物園の中でもロケーションが珍しく、最寄りの甲府駅から車で10分以内の距離にあり全国的にも貴重な「街の動物園」としてさまざまな世代に愛されてきました。エリアにはライオン、トラ、マレーグマといったワイルドな動物から、ビーバー、ブラジルバク、ペンギンなどのチャーミングな動物までと、園内は見どころが尽きません。動物の生態を間近に観察でき、また直接動物とのふれあいを通じながら豊かな情操を培う社会教育施設として多くに人々に親しまれています。(N. S)